



ふじ美が原

富士見中学校



令和三年一学期始業式

私の持つ3つの目標

二年四部 細川 結里晏

夏休みが終わり、たくさん行事が行われる二学期が始まります。私はそんな二学期に三つの目標を持ちながら生活しようと思っています。

一つ目は、反応を返すことです。私は一学期の時、授業中に反応を返さない事の方が多く、他の人に任せっきりになっていました。三年四部には先生からの問いかけに反応する仲間が多いです。例えば、授業中先生に問いかけられた時、すぐに返答できる人たちがいて、私はその人たちに隠れるように答えていました。そこで校長先生が入学式の時仰っていた「最初にやる勇氣」を思い出しました。その力をつけるために、私は授業中の挙手や挨拶を大きな声で伝わるようにしたいです。

二つ目は、判断力です。私は、重要なところや必要なところでも判断力が低いと感じています。すぐに決められないと思うことや、人に言われることが増えたと感じるからです。また、一つ目と同じように自分にこの力が足りないのと重要なことや大切なことを人任せにばかりしてしまうのはだめだなと思うからです。それに決められないからと人任せにしたことが嫌な方向へ行ったとき、後から言うのが嫌なので、何かを決める時意見を早めにはっきりさせたいです。その為に私はすぐ物事を決めるようにしたり、人に判断を任せきらないようにしていきたいです。

三つ目は、自分の中の基準を高めることです。私は、自分の中の当たり前基準が他の人と比べると低いと感じることがあります。でもずっとそのままにして過ごしてしまっていたので直したいと思うようになりました。直すためには私は今までより少しづつ高めの基準にして物事の完成度を高めていきたいです。

私の今言った「反応をしっかりと返すこと」「判断力をつけること」そして自分の中の基準を高くすること」の3つを二学期の目標にして生活していきたいです。

「一学期の抱負」

一年四部 植松 碧志

僕は「一学期のはじめ、今年の目標として 当たり前前のが当たり前前にできる。そしてその後の行動がとれるようにする」と決めて先月までの「一学期生活してきました。その結果、一学期は当たり前前のごとである提出物をほぼ忘れず提出することができました。しかし課題も残った一学期でした。それは後半の方になってきて生活にも慣れたときに、少し時間などへの意識が甘くなってしまったことです。

一学期の反省を踏まえ、二学期には、先ほどの年間目標の達成のために、基本の定着、そして自分のためになることをし、自分の姿でお手本を示す」という目標でこの二学期僕は生活していきたいと思っています。

まず最初に「基本の定着」については一学期後半、少し甘くなってしまっ

たこの課題からこの目標を立てました。僕はやってはいけないこと、やらなくてはいけないことなどの物事の見方が甘かったと思います。それを改善するために常に「三分前着席」「一△長としての呼びかけ」「課題の提出」など当たり前前のごとを当たり前前にしていきたいです。

しかし、思っているだけでは何も意味がありません。思っているだけでなく、それを行動に移さないとけない。これをしていない限り自分自身が変わることはできない。」という言葉聞いたときに僕はまだまだだなあと感じました。そして僕はよりよい自分になるために、「はじめの一步を出す」ことを意識していきたいです。

宿題も思いついたらすぐにやる。時間をよく見て行動する。委員会の仕事に取り組む。どの仕事も「はじめの一步を出す」ことがとても大切なので、口で今言っているだけではなく、必ず実行していきます。

次に「自分のためになること」をする。については、確かに人に何かをできる人間はとても立派な人間です。でもまだ僕はそこまでの力を持ち合わせてはいません。なので僕は部活でも勉強でも人として自分の力を伸ばしていきたいです。自分ができていないことを他に言っても説得力はないし、人はついてこないし、人のためになることもできない。なので今学期は基本の定着と「自分がお手本になれる人」を目指して自分を磨いていきたいです。自分のためになることをする」のは大変です。何もしないと成長しません。その

為にこちらにも行動が必要で。でもこちらに当たり前のことをやるのとは違い、自分でやるものです。なのでよりよい自分になるために、自分に必要な力、やっておいだ方がよいことをよく考えて生活して、自分をどんどん磨いていきたいです。

この二学期に僕はよりよい自分を目指して「はじめの「歩を出す」ことを常に意識しながら生活していきたいです。そして「基本の定着、そして自分がお手本になることをする」の目標の達成に向けて、大切なことを常に意識しながら、この二学期は今まで以上に必要な努力をしていきたいです。

校長先生のお話

一年四部植松さん、三年四部細川さんの二人は、今日から始まる一学期の目標を力強く語ってくれました。二人ともしっかりと自己分析をした上での目標設定ができていてとても感心します。最初にやる勇氣、はじめの「歩」、このことの積み重ねが大事だという考えは私と同じです。

今朝、私が何よりも嬉しかったことは、みなさんが元気に登校してくれたことです。このことが「一番嬉しかったこと」です。最初に伝えておきます。さて、これから二つのお話しをします。最初は「感謝」したい三つのお話しです。

一つ目は、富士見中の校地内にはたくさん樹木があり、中には十一年前に富士見高原中と南中が統合した際、南中の樹木も移植された歴史があ

ります。季節ごとにかわる樹木の整備はとても大変です。本校では用務員小林先生やボランティアの「きぼう」の方々、日ごろから整備をしてくださっていて、夏休み中も小林先生は毎日朝早くから整備してくださいます。きぼうの皆さんも休み中、暑い地面に顔を近づけながら一生懸命草取りをしてくださいました。みなさんの目にはいつもどおりに映る景色も、実は小林先生や「きぼう」の方々のお力によるものです。お礼を言いたいと思います。

一つ目は、校長室の窓の外に八本のヒマワリが花を咲かせています。



このヒマワリは一学期に濱先生の手によって植えられました。濱先生が言うには「昇降口付近に色が無いので、もう少し色合いがよくなればいい」と思っていてヒマワリを植えた理由をお話してくださいました。一学期に登校した際に、みなさんがこのヒマワリを目にすることを想像して準備してくださったのだと思います。他にも濱先生の花づくりのおかげで、教室の前のグリーンカーテンや季節に合わせて沢山のプランターの花を飾ってくださっていることに本当に感謝です。お礼を言いたいと思います。

二つ目は、冷房設備の設置作業が始まりました。教室の天井に取り付けられているのは冷房の室内機です。実際に稼働するのは来年になりますが、富士見町内の小中学校としては、富士見中学が最初に工事をしていただきました。小学校にはまだ設置されていません。この空調設備に係る町の予算総

額はおよそ「億八千万円」だそうです。皆さんのお家の方の税金と国の交付金が使われています。年々地球規模で気温上昇が問題となっている中、快適な教育環境を整えようとしてくださる富士見町やお家の方々感謝したいと思います。

最後に、みなさんごのよう二学期を送ってほしいか、私の願いを話します。私が学んだ教えの中に「守破離（しゅはり）」という教えがあります。漢字三文字で、最初に「守る」という字、次に「破る」という字、最後に「離れる」という字です。この三文字を音読みして「守破離」といいます。この「守破離」は、人が学び成長するための段階を表しています。

一年生では、「学期に中学生として大切なことをたくさん学びました。そのことはこれから中学校生活を送るための大切な基本になります。その基本をより確実に、より質を高くするのが二学期です。ですから一年生は基本を守る「守」の段階です。

一年生にとつての二学期は、お手本となる三年生のリーダーとしての姿を、いろいろな場面で見届ける最後の学期となります。二学期からは君たちがリーダーとして、学校の顔となり先頭に立ちます。また、部活動でも「足早くリーダーとしての役割が訪れていきますね。立派なリーダーになるには、最初にたくさん負ける練習、失敗する練習が必要です。これまでやって来たことを基本に、挑戦していく姿を見せてください。そういう意味では、まさにこれまでの自分の殻を破る「破」の段階です。

三年生にとつての二学期は、中学校生活の中で最も充実し、思い出が多くなる学期といえます。行事が続く二学期は、三年生の見せ場です。物事を成し遂げるには、学級、学年、生徒会が「丸」となって取り組むことが大切だという姿を、是非見せてください。それと同時に自分の進路選択の時期も訪れます。来年の春の自分を思い浮かべ、次のステージに立つ自分の姿を想像する学期です。中学時代の土台をもとに、新たな挑戦のステージへ向かうという意味では、これまでの自分から新たな自分作りに向かう「離」の段階と言えます。このように、一学期はどの学年も成長する学期です。

アー×鬼滅の刃では「全集中」という言葉が流行りましたが、全集中の正しい意味は、自分の目標に集中するという意味ではなく、目標を達成するために、すべてのことに集中するという意味だと思えます。自分のすべてに全集中する学期にしていきたいです。

最後に、一学期も「コロナ」の戦いが続きます。毎日不安と向き合って生活しなければなりません。この不安を抱きながらの生活から逃げずに向き合い、できることをみんなで工夫して乗り切っていきましょう。感染しない「感染させない」をみんなで意識しましょう。

富士見町立富士見中学校

諏訪郡富士見町富士見四六五四番地

TEL 0266-6212009

FAX 0266-6217409

担当 両角 太